

令和7年度第1回岡山県環境審議会水質部会 議事概要

(開催要領)

- 1 開催日時：令和8年2月5日（木）10:00～11:15
- 2 場 所：ピュアリティまきび 2階 白鳥
- 3 出席者：
 - 委員（五十音順、敬称略）
岩崎香子、沖陽子、小松満、杉山裕子、長濱統彦／計5名
 - 事務局（県）
環境管理課長、事務局職員／計5名

議 題	<p>【報告事項】 令和6年度公共用水域及び地下水の水質測定結果について</p> <p>【審議事項】 令和8年度公共用水域及び地下水の水質測定計画について</p>
会議資料	別添資料のとおり
議事概要	<p>【議事1：報告事項】 令和6年度公共用水域及び地下水の水質測定結果について (資料1に基づき事務局から説明)</p>
－委員意見等－	
委員	河川では湯原ダムの1地点でBODが環境基準を超過している。県としては何が原因であると考えているか。
事務局	生活排水のほか、内部生産が影響していると考えている。
委員	地下水の継続監視調査地点について、発生源は判明しているか。
事務局	<p>高梁市の調査地点では発生源が特定できているが、その他の地点では明確な発生源の特定には至っていない。</p> <p>発生源が特定されているものについては、浄化対策について県から事業者に対して指導を行っている。</p>
委員	地下水の概況調査で倉敷市の地点でふっ素が検出されているが、飲用していないため、継続的な監視は不要という判断か。
事務局	その通りである。
委員	<p>また、自然由来であると考えられることも理由の1つである。</p> <p>児島湖の窒素に係る環境基準が厳しいのではないか。</p>

事務局	<p>児島湖における全窒素・全りんの種類は、その利用目的を鑑みてあてはめを行っており、利用目的に変更がないため、現時点で類型あてはめの見直しは考えていない。</p>
委員	<p>海域の備讃瀬戸水域におけるDOの環境基準達成率が他と比べて低い原因はなにか。</p>
事務局	<p>他の海域と比較して備讃瀬戸水域のDOが低い訳ではないが、水島水域、児島湾水域と比較し、基準値が厳しいことが要因として挙げられる。</p>
委員	<p>児島湾では栄養塩である全窒素がもう少しあった方がいいという声があり、兵庫県などでは浄化センターの管理運転などを実施しているが、岡山県はどうか。</p>
事務局	<p>岡山県でも栄養塩の増加措置に取り組んでおり、岡東浄化センターでの管理運転をはじめ、民間事業者にも栄養塩の排出量の増加に協力いただいているところである。</p>
委員	<p>PFOS及びPFOAの測定結果についてはどうか。</p>
事務局	<p>いずれの地点においても指針値（暫定）※の超過はなかった。 ※令和7年6月30日付けで指針値（暫定）が指針値に見直された。</p>
<p>【議事2：審議事項】 令和8年度公共用水域及び地下水の水質測定計画について （資料2に基づき事務局から説明）</p>	
<p>審議の結果、原案が適当と認められた。</p>	
<p>－委員意見等－ 委員</p>	<p>浜の川橋地点で砒素が報告下限値を超えて検出されてきていることについて、自然（土質）由来と推測されるとのことであった。 自然由来による砒素の土壌汚染が確認されている地点から、砒素が検出された測定地点に距離があるように思われるがいかがか。</p>
事務局	<p>自然由来による砒素の土壌汚染が確認されている土壌と同質の土</p>

壤が周辺に広くひろがっていると考えている。

委員 伊里川水系で砒素が検出されていることに関連して、測定計画における測定地点を変更したり、追加したりすることは検討していないのか。

事務局 測定計画においては、水域ごとに代表する環境基準点などを設定し、経年的な水質の推移を追っていくことが重要であるため、測定地点を変更することは考えていない。

特に対応が必要な場合は、個別の調査計画を立案し対応したい。

委員 浜の川橋地点で砒素が報告下限値を超えて検出されてきていることについて、伊里川の上流で開発行為や土砂災害などの発生に関する情報は把握しているか。

事務局 砒素が検出された伊里川の上流で現地踏査をおこなったが、人為的な発生源は確認されず、また、開発や土砂災害の跡なども確認されなかった。

委員 地下水の概況調査地点の選定について、地域ごとに地下水の飲用が多い地域等を把握し、それを踏まえて地点選定をするなどしているか。

事務局 地下水の飲用の多い地域までは把握していないが、市町村を通じ、近年調査をしていない地域を中心に、地域での地下水の利用状況を勘案して測定地点を選定している。